

日本語日本文学専攻

1. 専修科目、授業科目、単位数、担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は、平成31年度の学生募集担当者を表します。

専修科目	授業科目	単位数	担当者	主研究内容等
日本語学	日本語学特別研究Ⅰ	4又は12	教授 ○山縣 浩	修士論文を踏まえ、各人の選んだ研究課題を広い視野で発展させるため、研究方法の指導を行う。特にデータ処理に関する助言が必要かと思われるので、その面に重点を置くこととした。
	日本語学特論Ⅰ	4		近代語における文法・語彙を中心とする問題を取り上げ、受講者とともに解決してゆく。この場合、文献資料や方言資料など、解決のための基盤となる資料の扱い方に注意し、論文作成を視野に入れた指導を行う。
	日本語学特別研究Ⅱ	4又は12	教授 ○江口 正	各自の選んだ研究課題について、言語学の理論的観点と研究手法を用いて分析する方法を指導する。研究史の把握、データの扱い、議論の構成法などについて具体的な指導を行いつつ、研究会・学会での発表や研究論文の執筆の実践的サポートを行う。
	日本語学特論Ⅱ	4		日本語の文法を中心とする諸問題を取り上げ、その問題と関連する諸理論を見渡しながら言語学的一般化がどのようなものであるべきかを考えていく。日本語の歴史的・地理的なパリエーションにも目配りをした研究の進め方についても考察の対象とする。
日本文学	日本文学特論Ⅰ	4	教授 田坂 順子	平安時代の文学における諸問題を取り上げる。院生本人の研究対象とする課題について指導を行うのは勿論であるが、それに加えて、この時代の文学全般、例えば和歌・物語・日記・漢詩文等の分野にも視野を広げ、幅広い知識の修得をめざす。
	日本文学特別研究Ⅰ	4又は12	教授 ○高橋 昌彦	江戸時代の文芸についての研究。研究者の希望するテーマに応じ、韻文・散文・芸能等の分野を問わず、作家研究・作品論の構築について修得を目指していく。
	日本文学特論Ⅰ	4		江戸時代の具体的な作品・作家を採り上げて、扱うテキストを確定するまでの書誌学から始め、その後の研究方法に必要な知識や基盤を身につけていく。
	日本文学特別研究Ⅰ	4又は12	教授 ○山田 洋嗣	平安から室町期に至る和歌の研究。特に表現の生成と表現意識の研究、歌学に関わる研究、両者の相関についての研究。また、近世に至るこれらの伝本と本文の伝来と形成についての研究を総合的に行う。
	日本文学特論Ⅰ	4		具体的な作品、作家、文芸事象等を取り上げて受講者の専門に応用可能な伝本と本文研究の方法、作品読解と作家研究の方法を講じ、これらを実際に適応して論文とする過程を展開する。
	日本文学特別研究Ⅱ	4又は12	教授 ○國生 雅子	詩歌を中心とした日本近代文学を、文献資料を重視して研究を行う。 主に明治期の「明星」及び「スバル」を活動の拠点とした詩歌人を取り上げ、詩歌というジャンルのみならず、小説や評論、また外国文学からの影響など、幅広く考察を加える。
日本文学特論Ⅱ	4	日本近代詩における雑誌研究。 詩歌を中心とする雑誌を選び、その現物、ないしは復刻版を詳細に検討し、書誌的研究から、さらにはその雑誌を中心として形成されたエコールの詩的特色を探る。		

2. 履修方法

- ① 学生の標準修業年限は3年とし、所定の研究指導科目について、合計12単位以上を修得しなければならない。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ② 研究指導科目のうちから一つの特別研究科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。その専修科目を必修とし、12単位を修得しなければならない。
- ③ 専修科目の研究指導(特別研究)担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導に従うものとする。
- ④ 特別研究科目は3年間12単位の履修を原則とするが、指導教員が研究上特に必要と認めた場合には、専修科目とせず1年間4単位の履修を認めることがある。
- ⑤ 博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。